

優秀賞 賞 CLA 2011

一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館）

株式会社三菱地所設計 藤江哲也・植田直樹・松榮宏幸・渡辺 修

丸の内パークビルディング・三菱一号館そして一号館広場は多くの来街者とオフィスワーカーで賑わう「丸の内仲通り(以下、仲通り)」の中ほどに位置する。東京の業務中心地区を縦断する仲通りは、1998年から三菱地所が取り組んでいる「丸の内再構築」により、銀行やオフィスビル中心の構成からブランド店を始め多彩な店舗が並び、歩行者を主役とする快適なストリートに生まれ変わった。一号館広場はこの仲通りが育んできた線的な空間の連続性に、面的な拠点空間となる中庭形式の憩いの広場を提供している。また、仲通りと一号館広場を結ぶアネックス棟では屋上緑化を施し、緑のネットワークを補完している。

本プロジェクトの最大の特徴は建築、設備、ランドスケープが一体となって商業・オフィスの集積地である東京丸の内の人工地盤上に、中庭という形態で緑豊かな憩いの空間を創出している点にある。

この憩いの空間は、今まで丸の内に無かったアートやオープンカフェに囲まれた「憩いの庭」であり、復元された三菱一号館の設計者ジョサイア・コンドルが愛したバラを始め、ラベンダー、シラカバ、ノルウェーカエデなど、レンガ組積造と相性のよい植物の色彩や水景が奏でる水の音、煌めきが都心の喧騒を忘れさせる。また、広場内の通路、噴水広場、ピロティー下のレスト空間、オープンカフェは、緑の中のヒューマ



多くの人で賑わう一号館広場

作品概要

作品名：一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館）
 所在地：東京都千代田区丸の内2丁目6番1号，2号
 発注：三菱地所株式会社
 設計：株式会社三菱地所設計
 設計協力：株式会社光和創芸，財団法人彫刻の森美術館，dpa lightning consultants
 監理：株式会社三菱地所設計
 施工：竹中工務店（建築総括），小岩井農牧（植栽），東光電気（電気設備），斎久工業（衛生設備）
 設計期間：2004年12月～2008年9月
 施工期間：2007年2月～2009年4月
 規模：敷地面積 11,991.79 m² 建築面積 8,280.04 m²
 主要施設：水景施設，パーゴラ，ドライミスト，保水性舗装，PLANTED COLAM（丸柱壁面緑化）など

作品評

この作品は、丸の内仲通りの中心に位置する三菱一号館の復元に伴う、人工地盤上に展開された外構の設計である。

この空間の設計にあたっては、委託者からの要請である「丸の内でも本当に憩える場所を創出すること」に対して、建築、設備、ランドスケープの担当者が一体となって中庭という形で「本当に憩える場所」の実現を図っている。

この憩いの空間を創出するにあたっては、商業施設との関係を大切にしながらヒューマンスケールで様々なシーンに対応できる空間を用意し、それらを連続させることで一体的な空間を構成している。

これらの様々な空間構成や表情は、季節の彩り豊かな様々な植物、音と形でリズムを与える水系施設、そしてアートなどを巧みに組み合わせることで生み出されており、その点が高く評価された。また、「訪れた人々がそれぞれの思いに合った居場所」のつくり方の巧妙さも評価された。さらには、広場の気温を低減するなど、環境への配慮が定量化できる工夫も同時に行っている点も評価されたことから、優秀賞とした。

ンスケールが心地良く、昼間と異なる表情を見せるライティング、季節のイベント演出など、さまざまなシーンの展開が空間に魅力を与えている。この場所を訪れた人々それぞれに合った居場所があり、そこには必ず緑に包まれたベンチが用意されている。

本プロジェクトでは、全体として環境配慮について積極的に取り組んでいる。ランドスケープでは、ヒー

トアイランドの軽減やカーボンマイナスへの貢献として屋上や壁面緑化、保水性舗装、ドライミストなど、さまざまな新しい技術を導入。貯留した雨水利用により水資源を有効利用している給水型保水性舗装では、灌水することで晴天時が続いても蒸発散効果が作用し、アスファルトと比べ表面温度が10～20℃も低減する効果を確認している。



みどりが寄り添う憩いの空間



環境貢献と清涼感を与えるドライミスト



みどりの中で語り合えるベンチ



賑わいが広場へと滲み出すオープンカフェ



夜間の演出



イベント期間中の演出